

神楽名

おはえ 尾八重神楽

伝承地

尾八重地区
西都市尾八重

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

尾八重神楽保存会
事務局 元水 均



宿神

◆ 神楽の概要・由来・その他

尾八重神楽は、宮崎県中央部、旧東米良村（銀鏡・上揚・八重・中尾・尾八重（現西都市）・中之又（現木城町））の尾八重地区にて継承されている。現在の行政区は西都市であり、穂北に隣接する。古い文書によれば、旧東米良村から現西米良村までの広範囲に及ぶ一ツ瀬川上流の山中を、米良山と称した。

神楽は多くの人々が「生まれ」「生き」「逝く」その先を念じて始められた、祈りの文化と伝えられており、何より尾八重神楽ではこの思想を大切にしている。特に、祈りの原点となる自然崇拝が舞の中に色濃く反映されている。尾八重神楽は、西都市都萬神社の社人であった壱岐宇多守により、保安2年（1121）に始められたと伝えられている。旧東米良湯之片の地に籠堂を建て、修験道を説き、神楽を伝授したとされる壱岐宇多守は、「湯之片若宮大明神」として、「幣差」の連結舞である五番「花鬼神」に登場する。壱岐家が、氏神として京都の石清水八幡宮より勧請を許された「石清水正八幡大明神」が、八番「宿神」にて、尾八重神楽最高の神格をもって降臨する。

◆ 芸能の機会・場所

- 尾八重神楽...尾八重神社の秋の例大祭にて、11月下旬に奉納
- 打越地区の宿神社、湯之片神社の例大祭、尾八重祖霊社の祖霊祭などで奉納される

◆ 演目一覧

しめた 建立て	はちまんみや 八幡宮に神迎え	ししばまつ 猪鹿場祀り	しめあげ 壱番: 遡上
祭典式	みこし ときよ 神輿の渡御	きよやま 貳番: 清山	ぢわり 参番: 地割
ひさし 四番: 幣差・五番: 花鬼神(連結舞)	はなきじん れんけつまい ちんじゆかぐら 八番: 宿神 九番: 鎮守神楽	だいじんかぐら 六番: 大神神楽	しゆくじんちまい 七番: 宿神地舞
しゆくじん 八番: 宿神	やこんまい 拾貳番: 八子舞	はちまん 拾番: 八幡	はつしやんかぐら 拾壱番: 八社神楽
ししまい こうじん 拾六番: 獅子舞・荒神(連結舞)	いなりきじん 拾参番: 稻荷鬼神	しほうきじんちまい 拾四番: 四方鬼神地舞・拾五番: 四方鬼神(連結舞)	はつしやんかぐら 拾八番: 神和
よつたりかんすい 拾九番: 四人神楽	ひとつつぎ 貳拾番: 一人釵	ばんげき 拾七番: 磐石	かんなき 拾八番: 神和
つなちまい 貳拾参番: 綱地舞	つなこうじん 貳拾四番: 綱荒神	だいしょうぐん 貳拾壱番: 大將軍	しばこうじん 貳拾貳番: 柴荒神
みかさこうじん 貳拾七番: 衣笠荒神	いせかぐら 貳拾八番: 伊勢神楽	つなかぐら 貳拾五番: 綱神楽	くりおろ 貳拾六番: 繰落し
きよ 参拾壱番: お清	いせかぐら 貳拾八番: 伊勢神楽	たちから 貳拾九番: 手力・参拾番: 戸開(連結舞)	とひらき 参拾参番: 舞上
	ひやくにじゅうばん 参拾貳番: 百貳拾番	まいあげ 参拾参番: 舞上	ごきかんさい 御帰還祭

※令和元年（2019）11月23日～24日に奉納された演目に基づく

◆ 演目の特徴

米良山の神楽には、地主神（土地神）的な性格を持つ神が多く登場する。「地舞」とよばれる素面の舞で、御神庭の清め祓いを行い、神々を勧請する。

尾八重神楽の特徴的な演目として、拾貳番「八子舞」ではイセド芋（里芋）を乗せた膳を採り物に、五方を割る。これは農耕の神である稲荷信仰の象徴であり、「初物供え」の姿を現している。参拾壱番「お清」は、火の神、火伏せ舞であり、竈の神を祀る舞とされる。舞の途中で台所に向かい、火伏せの口上にて竈の清めが行われ、御神酒とイセド芋が振る舞われる。

参拾貳番「百貳拾番」では、参拝者の中からそのときの干支合歳の8名が選ばれる。108の煩惱と十二支の12を足した数を表し、十二支を祀り、過ぎゆく年への感謝を込め舞われる。祭りの喜びそのものを象徴する舞でもある。

舞の随所に見られる飛び跳ねる動作は、「反閤」「カラス飛び」とよばれており、尾八重神楽を象徴する所作である。

◆ その他の特徴

- 面... 花鬼神、宿神、八幡、稲荷鬼神、四方鬼神、中玉（中王）、獅子舞、獅子取り荒神、磐石、神和、柴荒神、綱荒神、衣笠荒神、手力、戸開 等
- 楽... 太鼓、篠笛、鉦、楽板、法螺貝
- 装束... 白衣、素襖、狩衣、千早、袴、着物、烏帽子、毛頭、天冠 等
- 採り物... 鈴、扇、御幣、面棒、刀、弓、矢、榊、櫛、膳、磐石道具 等
- 文書... 「尾八重神楽解説書」尾八重神楽保存会、「米良山の神楽調査報告書」令和2年(2020) 等

◆ 伝承の現状・課題

尾八重では神楽を舞う人のことを社中と言う。令和3年（2021）現在、社中は28名在籍しており、伝統を忠実に守りながら神楽と文化の継承を行っている。「社中会」は県内外での各種行事に参加するほか、自発的に県外神社への神楽奉納も行っている。

集落維持が困難な状況の中でも、先祖代々地域に根付いてきた文化の根源たる思想を大事にしながら、神楽をはじめとした文化の一切を、実直に伝承していくことが課題である。



花鬼神



四人神崇



柴荒神